

研究概要報告書

テーマ 和歌山県田辺市における域際取引の実態調査について

(1)調査の目的

①田辺市における地産地消の実態把握

近年の農産物等に見られる産地直販店の活況に注目し、その実態を具体的な数字の上で把握することにより今後益々この状況を盛んなものにするための研究の基礎としたいと考えた。

②「平成12年田辺市13部門産業連関表」作成のためのデータ入手

いわゆる地方分権の政治体制が推し進められている昨今の状況にあつて地域経済の研究は益々重要となることは明らかであり、その場合地域においてその地域独自の産業連関表があればその分析研究の上で非常に役立つものとなると考えられる。私は数年前から田辺市の産業連関表を作成することを目標に未熟ながら私なりの努力を続けてきたが、今回の調査の目的の1つはその作成中の産業連関表の移輸出入項目の数値推計に必要なデータを得たいということであつた。(注)

(注)作成中の田辺市産業連関表については当研究所に提出した「研究報告書」の末尾に試案の1例(未完成のもので今後修正を予定している)を掲載しているので参照されたい。

(2)調査方法等の概要

調査は主としてアンケートによつた。調査時期は20年11月。調査対象は5業種1,803の事業所に対して行つた。アンケートの質問内容等の詳細は上述の「研究報告書」を参照されたい。

③調査結果の概要

調査の結果として特に注目すべきは農業についてであつた。集計内容の詳細は上記「研究報告書」を参照して戴けばよいが、結論的にいえば田辺市の農業については市内売上額の比率が非常に高く、つまり地産地消が大変進んだ状況であるということである。これはしかし産地直販店等の活況が原因をなしているというよりはこの地域の古くからの梅を取り巻く産業構造の特徴に原因していると考えべきであろう。産地直販店等の売上額は「研究報告書」の集計表に表れた数字から見ると限り地域全体に占める割合は微々たるものである。

田辺市では古くから特産品としての梅の加工業やその他の関連する産業(例えば梅漬け用の桶の製造業)が発達し、これらが複合的な産業構造を形作つて来たと考えられる。田辺の製造業の内多くの部分を占めるのは梅の加工業であり、その原料の梅は大部分地元の農家が農協へ出荷するものであるということを考えれば上の結果が出るのは当然のことである。

農業以外の業種については「研究報告書」を参照されたい。

④課題と展望

①課題

この調査を終えて今後の課題として挙げたいことは多くあるがそのうち最も述べたいことを挙げれば地域(行政も含む)の協力体制の重要性である。ヒアリングの場合事前に商工会議所や市当局からの紹介の電話をしてもらった訪問先では格段に訪問の効果があることはこれまでの経験から明らかである。今後このような住民の自主的な調査活動が行われる場合行政等の指導的な立場の方々には積極的に協力する姿勢を望みたいのである。調査が成果を挙げられるかどうかは何よりもこの協力が得られるかどうかにかかっているのである。

②展望

今回の調査は地産地消の状況把握という目的の他に田辺市の産業連関表を作成するために必要な最終需要項目のうちの移輸出の推計の裏づけとなるデーターを入手するという目的があった。

作成中の産業連関表は「平成12年田辺市13部門産業連関表」である。この作成を思い立ったのは平成15年の頃であった。当時和歌山県の産業連関表として最新のものは(全国すべての都道府県で同様であったと思うが)平成12年のものであった。この田辺市の産業連関表を作成するに当たって表の構成要素である各数値の推計の基礎を多くの場合県の産業連関表に求めざるを得なかったため作成しようとする田辺市産業連関表も平成12年のものとせざるを得なかったのである。

現在の進行状況からそれ程遠くない日に表を完成させることが可能であり、その後はそれについての「作成報告書」を書いてゆく計画をたてている。

もとより満足な産業連関表が出来るとは思っていないが今後市民からする地域の経済研究の一つの試みとして一人でも多くの人の関心を呼ぶことが出来ればこの上ない喜びである。

(了)